

解答

一

- 1 個展 2 堤防 3 規律 4 終始 5 計〔る〕 6 肥〔えた〕
7 よきよう 8 しゅつじ 9 の〔びる〕 10 ただ〔ち〕

二

- ① イ ② オ ③ エ ④ ウ ⑤ ア

三

- ① 誕生日にぬいぐるみと大きい花束をいただいた。
② 7の2倍に3と4を足すといくつになりますか。

四

問一 工 戦地で、言葉にできないようなことを見たりしたりして来て、地獄を経験をしてしまったから。

問二

問三

問四

問五

問六

泣きたい気持ちをがまんして夫を戦争に送り出したことを悔いる（気持ち）。
鬼を背負う
シゲばあさんは、嫌われたり除け者にされたりすることをおそれず、言いたいことを言い、決めたことをおし通し、自分の気持ちを偽らずに生きている。そんなシゲばあさんの心意気に触れたことで、強く自分らしく生きていくのも悪くないと思う気持ち。

五

問一

問二

問三

問四

問五

問六

生命の輪郭そのものをとらえたデッサン
三万二千年も前に描かれたとは思えない点。
エ
むきだしの宇宙に触れるのがこわい（から）。
オ

人類最古の洞窟壁画が、三万二千年も前に描かれたとは思えない精密で生き生きとした表現力を持つており、今後もそうでありつづけるだろうということ。

解説

四

問六

「がんにっこって呼ばれてもええ。嫌われてもええ。」（自分の）ここんどこにある気持ちを偽らんようにするんや。そうやって、生きてやるんがいね。「言いたいことも言わんと、がまんして、それですませてしまふ。嫌われるのや、除け者にさせるのが怖くて、自分の思うたこと口にせんと、すませてしまふ。」
「あんた、いつまでもそのままで、おるんな？」というシゲばあさんの話を聞いているうち、金池さんはシゲばあさんに共感を覚え、「わたしも、がんにっこになれるでしようか」と言っています。

五

問六

ここでの「きのう」は、筆者の二歳の息子が自分がうまれる以前の時間を「すべてが彼のなかでは、『きのう』のうちに収まってしまふ」感覚として使われています。三万二千年も前に描かれた壁画がその長い歴史を感じさせず、そしてこれからも生きているような力を持ちつづけるだろうということが述べられているのだと考えられます。